

第5卷第2號

昆 蟲

昭和6年7月

東京昆蟲學會

Vol. V, No.2

KONTYŪ

June 1931

Tôkyô Entomological Society

Mellinus tristis PEREZ に就きて

安 松 京 三

ANTON HANDLIRSCH¹⁾ は 1887 年朝鮮から *Mellinus obscurus* なる種を記載した。後に 1905 年 JEAN PÉREZ²⁾ は HARMAND の採集した日本産の *Mellinus* の 1 種を *M. tristis* と命名したが、その記載に入るに先立つて次の如く述べた。

"Peut-être une simple variété du *M. obscurus* HANDL., de Corée."

私は朝鮮の *obscurus* に相當する標本は見る機会を得て居ないが、原記載及び原圖と日本の *tristis* とを比較した結果によれば、後者は前者の "variété" ではなくして、PÉREZ が疑を有しつつも新種としたやうに、獨立した種であると思ふ。PÉREZ は産地を擧げて居らず、又記載も稍不完全で補足を要する點がある故、茲に再び詳細に記載したい。本種は相當稀種に屬するものや

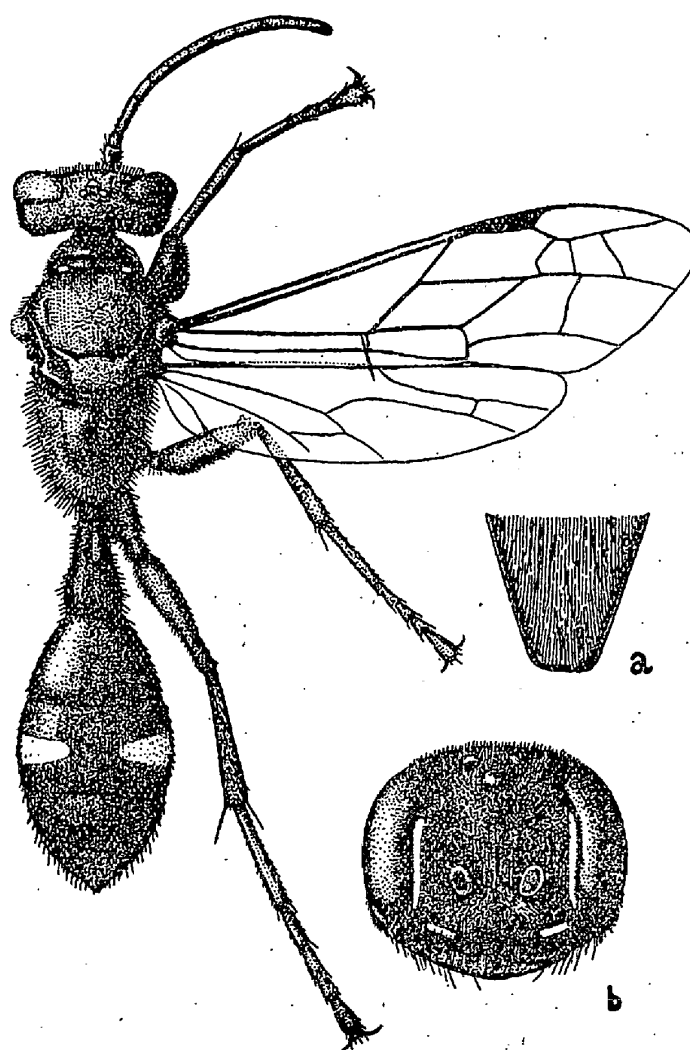
1) ANTON HANDLIRSCH, Monographie der mit *Vysson* und *Bembex* verwandten Grabwespen. II. (Stizungsber. d. Kais. Akad. d. Wiss. math. Naturw., Wien, 1887, p. 271-296.)

2) JEAN PÉREZ, Hyménoptères recueillis dans le Japon central par M. HARMAND, ministre plénipotentiaire de France à Tokio. Troisième partie. (Bulletin du Muséum d'Histoire Naturelle, Paris, 1905, p. 156-157.)

うで、現在九州帝國大學農學部昆蟲學教室には次に掲ぐる如き採集者による
3 頭の標本が保存せられて居る。

1916 年 8 月 20 日	本州甲斐國八ヶ岳	1 雌	竹内吉藏氏
1922 年 8 月 31 日	北海道北見國網走	1 雌	江崎悌三博士
1930 年 8 月 2 日	九州筑前國英彦山	1 雌	岡部浩洋氏

記載 ♀ (*obscurus* 及び *tristis* の ♂ は未知。) 黑色にして光澤あり。全
身に短毛を密生す。



Mellinus tristis PÉREZ. ♀ a. pigdial area. b. face.

頭部——横位にして顔面廣し。左右兩複眼は、前方より見る時、内縁ほぼ平行するも上方に近く相收斂す。頭楯の前縁中央部に互に相當近接して顯著なる3齒を裝ひその各は細くして尖れり。左右兩觸角の基部の間より起りて顔面の中央を縦に走る低き1隆起線あり。この隆起線は中央の單眼に達せず。觸角の基部附近は稍凹めり。大腮に2齒を具ふ。點刻を密布するも頭部に於ては顔面、頭楯及び頬上に於けるよりも粗なり。頭部には銀白の微毛を密生居す。頭楯及び大腮上の毛は長くして黄白色を呈し粗生せり。

胸部——前胸背板は略鞍形をなし、その後隆起の中央は縦に稍凹めり。中胸背の前縁より後方に走る短き條の縦溝ありて、中央の2條は互に接近して存在せり。前胸背板と中胸背板及び小楯板と後楯板との境界は極めて顯著にして小楯板は比較的高く、中胸背板は面積相當に廣し。中胸背板には又その兩側縁に近く縦溝存す。前伸腹節には圖にて見得る如く1圈帶あり。圈帶上には後方に向ひて稍發散的なる不規則なる皺存し、圈帶の中央は稍凹めり。前伸腹節の後縁より起りて前方に向ふ3條の縦隆起あり。中央の1條はその起點と圈帶の後縁との間の半分位の所にて二つに分岐せり。その分岐點の前方は稍凹めり。左右兩縦隆起は斜に前方に走り stigma より稍後方に於て圈帶の側縁に達す。然れどもその隆起は圈帶近くの部に於ては顯著ならず。前中兩腿節は太く後腿節に比して短く、中後兩脛節端には2長刺あり。後脚の脛節には黄白色の稍短き刺不規則に多く存す。點刻を密布す。Metasternum 上には毛及び點刻なく極めて光輝あり。前伸腹節の圈帶には毛なく點刻は極めて微細にして殆どなしと云ふも可なり。圈帶外の部は毛密にして稍長し。爪には基部に近く長き毛2本を有しその生ぜる部は稍凸出せりと雖も未だ齒を形成するに到らず。

腹部——第1節は柄をなし他の部は略長橢圓形なり。柄の前半、上面中央に廣き縦の凹陷あれどもあまり深からず。Pigidal area は大部分縦條を有し毛を粗生す。その基部には點々せる不規則なる凸點存す。腹部下面は上面より稍長き毛を密生す。

色——黑色。複眼の内縁に沿ひて縦に走る一帯、頭楯上の横帶、大腮上の一部、觸角柄節の前面及び tegulae は殆ど前半、更に前胸背板上の左右に存する1紋、腹部背面第3節上の2大紋は黄色。脚の環節には黄色斑を混在せり。頭楯上の黄色横帶は完全に現れたる場合には、横帶の中央部は頭楯の基部に回つて僅かに突出せり。大腮の先端の方は黒褐色。翅は透明なれどもごく僅かに暗色味を有す。翅脈は黒褐色にして縁紋もほぼ同様なり。各跗節は略黄褐色、後脚の跗節は褐色、爪も褐色にして pulvilli は黒褐色。

測定——體長 12.5mm.、腹長 6.2mm.、腹柄の長さ 1.6mm.、前翅長 9.5mm.、後翅長 7.5mm.、單眼の形成せる二等邊三角形の2邊の比即ち一邊:底邊=9:14。

黄色斑紋或は點の變化——上記3頭の標本を見るに次に掲ぐる如き諸部分上の黄斑或は點は相當變化に富むもので注意すべき事と思ふ。

	網走産	ハケ岳産	英彦山産
頭楯上の黄色帯	中央にて遮断せらるることなく英彦山産のものより稍幅狭し	中央にて遮断せられ2部分に分る(圖参照)	遮断せらるることなく幅廣く殆んど頭楯の大部分を占む
大腮外面の黄色紋	右の大腮上には1個、左の大腮上には2個存在せり	1個存在せり	大腮外面の大部分黄色なり
前胸背板上の2黄紋	相當大にして英彦山産のものと同様なり	小なり	網走産に同じ
小楯板上の小黄色斑	なし	なし	中央に不定形の1小黄色斑あり
前脚基節上の黄色部	なし	なし	先端前内面及び後基節の外後方の一部黄色
前腿節の前面の黄色部	なし	先端僅かに黄色	先端及びそれに續きて下面黄色
中腿節の前面の黄色部	先端近く下面の相當な部分黄色	先端近く相當黄色	先端の大半は黄色
後腿節の前面の黄色部	先端近くの1小紋黄色	先端の1小部分黄色	先端近くの稍下方大部分黄色
腹部第2背板上の黄斑	微小なる1黄點あり、ルーベにて明かに認め得	なし	なし
腹部第5背板上の黄斑	黄點(微小)の連續あり、ルーベにて明かに檢し得	網走産に同じ	なし

即ち上表に示したる如く頭楯、大腮、前胸背板、各脚の基節及び腿節上の黄斑紋或は點は多少變化するものである事を知る。然し特に注目すべき事項は小楯板及び腹部第2・第5兩背板上にも時として微小ながら黄色部の現れる事實であらう。

PÉREZ は本種と *obscurus* との相違を主として色彩に就て與へたが、私はそれ以外に横顔の比較をなした所によれば尙幾分の相違點を認めざるを得ない。即ち *obscurus* の原圖が正確なりとすれば次の2點によつて異つて居る。

1. *M. obscurus* の複眼の後縁は中央部が僅かに刻られ彎曲の氣味あるも

tristis のそれは更に僅かにして殆んど直線に近し。

2. 顔面は *obscurus* に於てはその slope がなだらかなる曲線を描き居るも *tristis* にては中央單眼と觸角の基部との間の中央位の所にて稍角ばりたるの觀あり。

分布——北海道、本州、九州。

本屬の雌蜂は地中に營巢し双翅目昆蟲の成蟲を狩りてその幼蟲の食糧に供するもので、歐洲に於ては既に多くの生態觀察が報告せられて居る。我國に於ては勿論未だ明かにされて居ないが今後注目すべき事柄であらう。最後に和名を附しておきたい。

Genus *Mellinus* FABRICIUS ヒメアナバチ屬 (新稱)

M. tristis PÉREZ ペレーヒメアナバチ (新稱)

M. obscurus HANDLIRSCH. テフセンヒメアナバチ (新稱)

PÉREZ の原記載を見せて下さつた江崎教授並に標本を提供された前記諸氏に對し厚く感謝致します。